

## 「日本の大学教員の女性比率に関する分析」の公表について

科学技術政策研究所(所長 桑原輝隆)では、日本の研究者に占める女性比率が国際的に低いという問題について、研究者の約 6 割が所属する大学の教員に占める女性比率や、大学・大学院の学生に占める女性比率について分析しました。近年、日本の大学学部卒業者および大学院修了者に占める女性比率は増加し、例えば 1975 年から 2010 年の 35 年間に博士課程修了者の女性比率は約 5 倍に増え 3 割程度になっています。

多くの分野では大学から大学院に上がるほど女性学生比率が低くなりますが、工学と社会科学分野では大学と大学院での女性比率がほぼ等しくなっています。これは大学院で女性留学生が増加するためです。博士課程を修了した女性留学生は日本人女性学生よりも日本でポストドクターになる比率が倍近く(約 4 割)、大学の教員になる率は半数程度です(約 1 割)。

日本の大学教員においては職階が上がるほど女性比率が低くなっています。もっとも若い世代ほど女性比率の減少は改善されています。2007 年度の日本人女性教員の離職率(定年退職を除いた値)は 6.6%であり、日本人男性よりも 2.2%ポイント高いことが示されています。

今回の分析から得られた主な結果は次頁以降のとおりです。

※ 本報告書につきましては、科学技術政策研究所ウェブサイト

(<http://www.nistep.go.jp/index-j.html> の「研究成果」の「調査研究一覧」)に掲載されますので、そちらで電子媒体を入手することが可能です。

(お問い合わせ)

科学技術政策研究所 第 1 調査研究グループ 担当:加藤

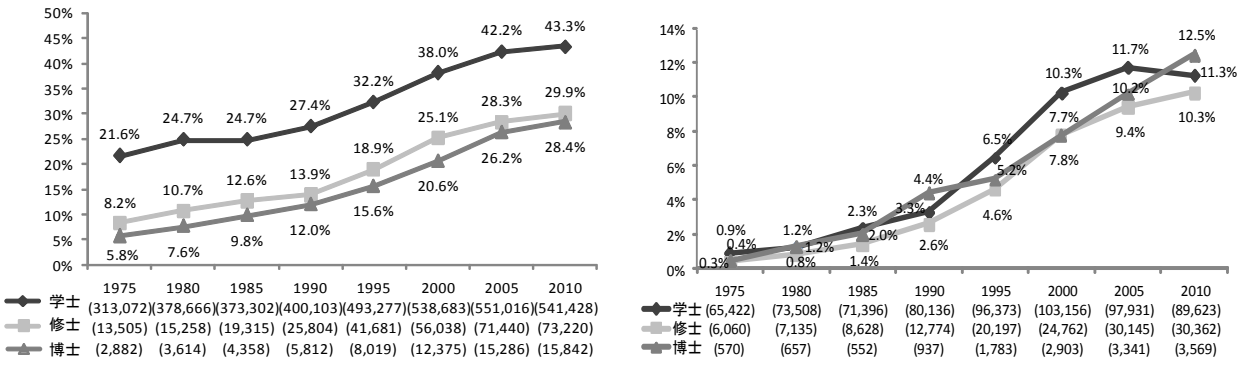
TEL:03-3581-2395(直通) FAX:03-3503-3996

e-mail:1pg@nistep.go.jp ウェブサイト:<http://www.nistep.go.jp>

1. 1975年から2010年の間に日本の大学の学部卒業者および修士・博士課程修了者に占める女性比率は増加し、特に博士課程修了者の女性比率は約5倍の28.4%になりました。多くの分野では大学から大学院に上がるほど女性比率が低くなりますが、工学と社会科学では学部と修士・博士課程での女性比率がほぼ等しくなっています。これは大学院で女性留学生が増加するためです。

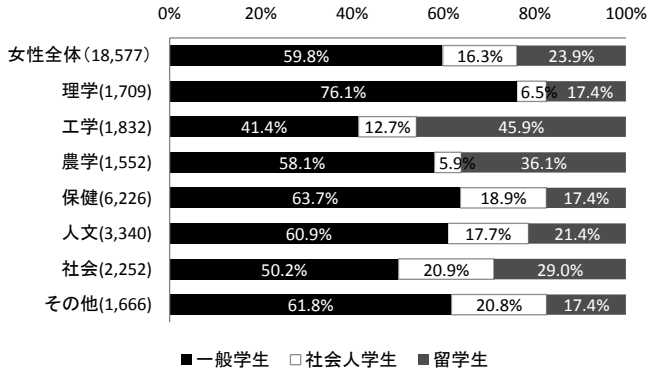
- (1) 日本の大学における学部卒業者および修士・博士課程修了者の女性比率は1975年から2010年の間に全ての分野で増加し、全分野合計では学部卒業者の女性比率は約2倍の43.3%に博士課程修了者の女性比率は約5倍の28.4%になりました。(図表1左)
- (2) 全分野の学部卒業者の女性比率は修士・博士課程修了者の女性比率よりも常に高くなっています。しかし工学と社会科学分野では、学部と大学院での女性比率がほぼ等しいまま推移しています(図表1右)。工学分野の日本人女性学生は修士・博士と段階が上がるにつれて減少しますが、女性留学生が増加する結果女性比率は各段階で一定となっています(図表4右)。

図表1 学部卒業者と大学院修了者の女性比率の推移 (左: 全分野、右: 工学系分野)



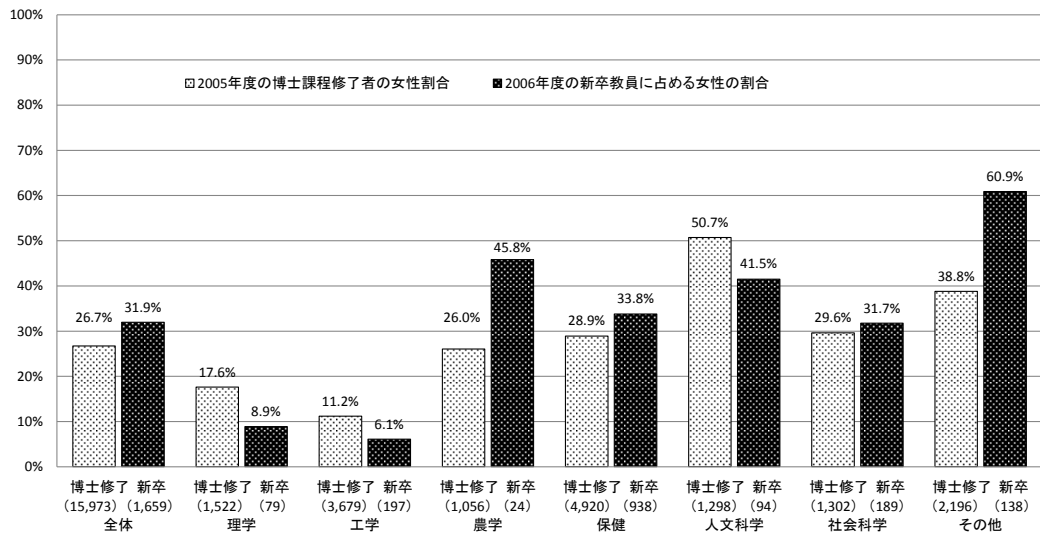
- (3) 2002年度から2006年度の間には我が国の博士課程を修了した女性の23.9%は留学生であり、分野別では工学分野での留学生比率が最も高く45.9%を占めます。(図表2)

図表2 女性博士課程修了者の学生種別構成 (研究分野別)



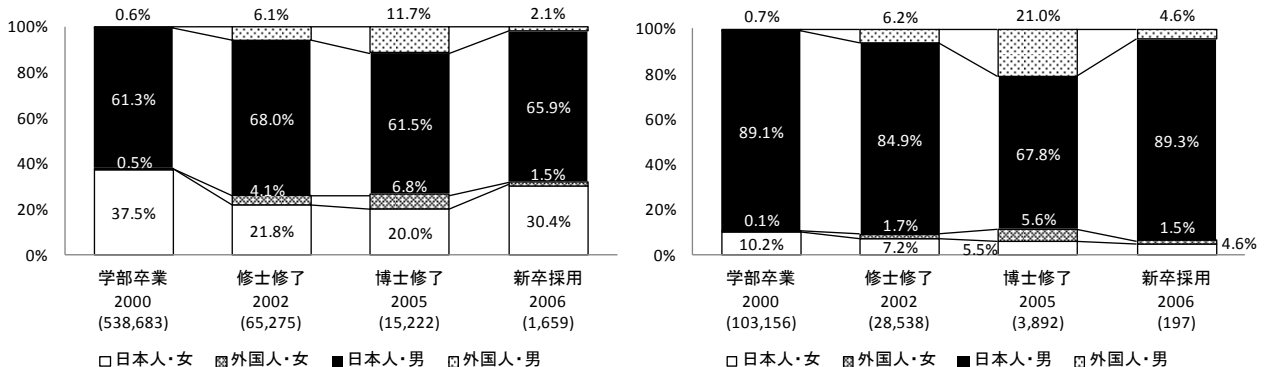
2. 新卒で採用された大学教員の女性比率と博士課程修了者に占める女性比率を比較すると、全分野では新卒教員の女性比率31.9%が博士課程修了者の女性比率よりも5.2%ポイント高くなっています。一方、理学、工学、人文分野では逆に新卒教員の女性比率が博士課程修了者の女性比率よりも低くなっています。(図表 3)

図表 3 新卒採用者と博士課程修了者の女性比率 (分野別)

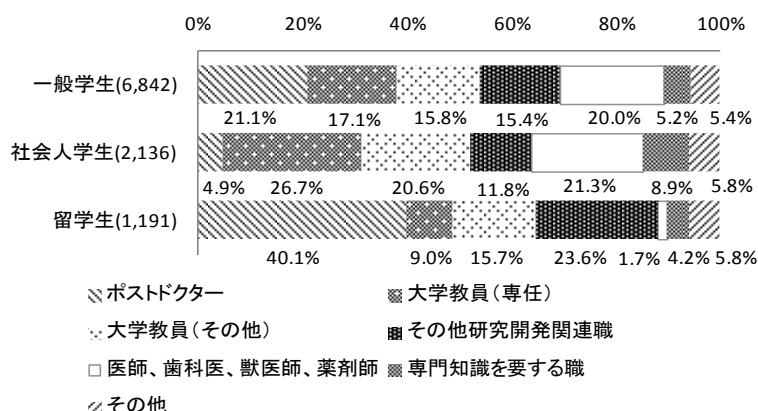


3. 留学生の帰国や第3国への移動を考えても、女性留学生は日本人女性学生よりも大学の教員として就職していない傾向が見られます。このような傾向は男性でも同様です。(図表 4) 女性留学生は一般学生よりもポストドクターになる比率が高く40.1%であり、大学の専任教員になる率は約半分の9.0%です。(図表 5)。

図表 4 新卒教員の男女別・国籍別構成 (左: 全分野合計、右: 工学分野)

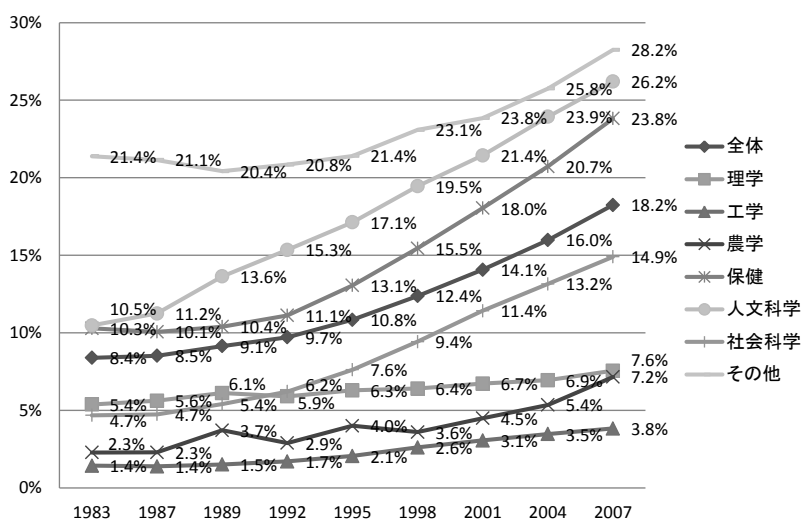


図表 5 日本で就職した女性博士課程修了者の進路（学生種別）



4. 大学教員に占める女性比率は全ての分野で増加していますが、女性比率が元々低い工学や農学そして理学分野では近年でも依然として低水準に留まります。(図表 6) 日本の大学教員においては職階が上がるほど女性比率が低くなっています。(図表 7) もっとも若い世代ほど女性比率の減少は改善されています。2007 年度の日本人女性教員の離職率(定年退職を除いた値)は 6.6%であり、日本人男性よりも 2.2%ポイント高いことが示されています。(図表 8)

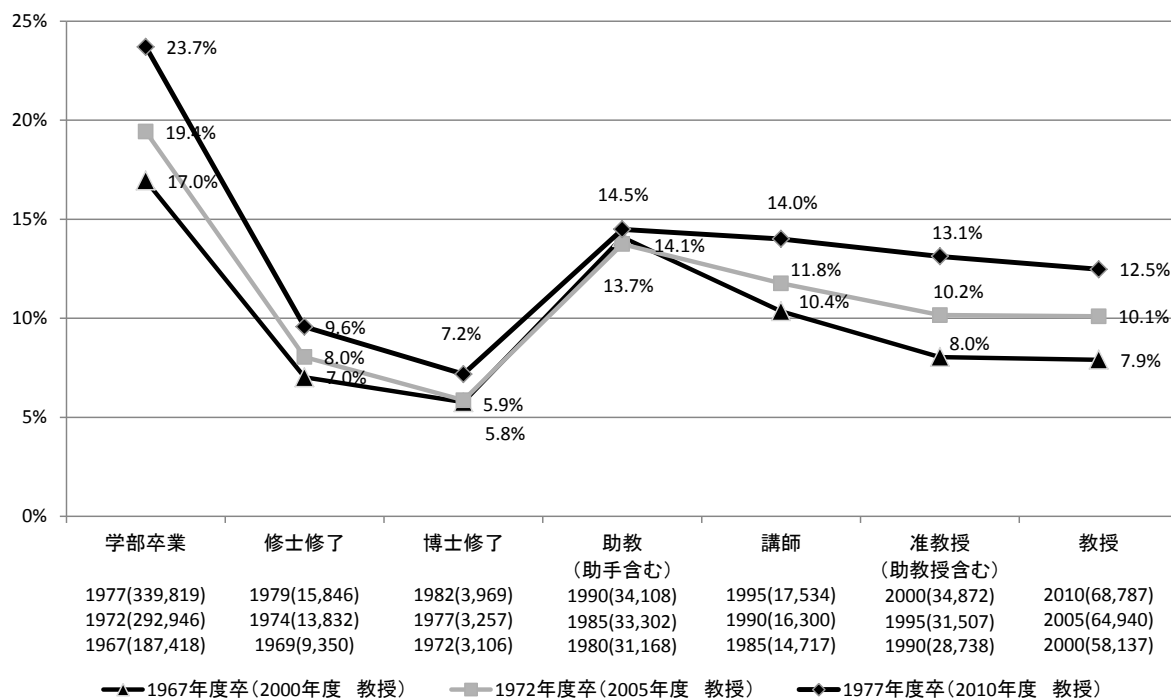
図表 6 大学教員に占める女性比率の推移



(1) 2000 年度、2005 年度、2010 年度の時点で日本の大学において教授職にある者(学部を 1967 年度、1972 年度、1977 年度に卒業した者)の、学部卒業から教授に至るまでの教育課程と教員職階における女性比率の推移を見ました。この結果、過去 3 時点の世代の全てで

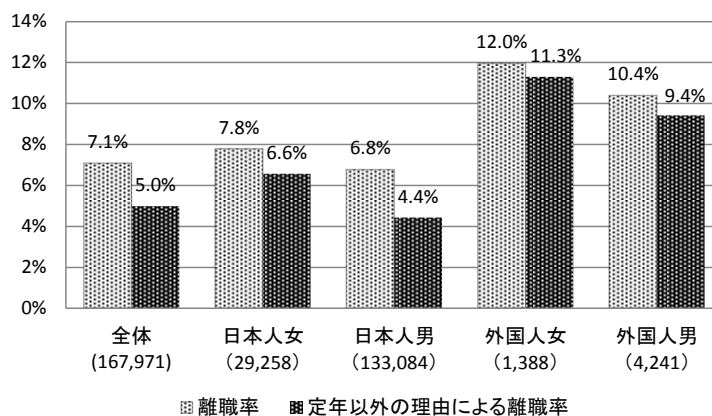
助教職での女性比率は 14%程度であり、10%以下である修士および博士課程の女性比率より高いことが分りました。過去においては、上位の職階ほど女性比率が低くなっていますが、若い世代ほど助教から教授に至るまでの女性比率の減少が小さくなっています。(図表 7)

図表 7 過去の世代における学生と教員に占める女性比率（全分野）



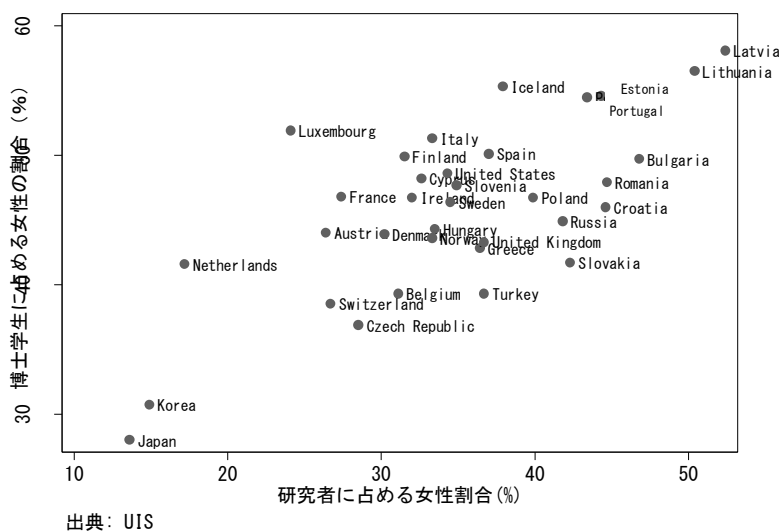
(2) 2007 年度の日本人女性教員の離職率(定年退職を除いた値)は 6.6%であり、日本人男性と比較して 2.2%ポイント高いことが示されています。(図表 8)

図表 8 大学教員の離職率(男女国籍別)



5. 世界の主要国においては、博士学生に占める女性比率が高ければ研究者に占める女性比率も高いという関係があります。日本の博士学生に占める女性比率は近年大きく増加してきましたが依然として3割以下であり、研究者に占める女性比率と同様に世界の主要国よりも低いことが示されました。(図表9)

図表9 研究者に占める女性比率と博士学生に占める女子学生の割合



結論と考察：日本の大学教員に占める女性比率が低い工学、農学、理学分野では、日本人女性教員および女性学生に対する支援に加え、優秀な女性留学生に対して大学教員として働くキャリアパスをより多く提供することが求められます。

欧米諸国のような女性研究者比率を達成するための1つの方策として、日本の博士学生に占める女性比率と博士課程修了後に研究者として就職する者の女性比率を高めることが考えられます。我が国の女性博士課程修了者に占める留学生比率は約4人に1人ですが、女性留学生は日本人女性学生と比較してポストドクターになる率が高く大学の専任教員になる率は約半分であることが示されました。

日本の大学教員の女性比率は、分野により多少の変動はありますが全ての分野で増加しています。特に人文、社会科学、保健分野の女性教員比率は順調に増加していることから、このトレンドが停滞しないようにすることが求められます。一方、工学や農学そして理学分野の大学教員の女性比率は元々低く近年でも低水準に留まります。よって女性教員比率が低いこれら分野では、日本人女性教員が勤務を継続し易くするための支援および自然科学系を学ぶ女性学生の増加を図る施策等を拡充することに加え、優秀な女性留学生に対して大学教員として働くキャリアパスをより多く提供することが求められます。このような大学の国際化が、ひいては日本における女性研究者の活躍の促進に繋がると考えられます。